

# マダラ

陸奥湾海域

*Gadus macrocephalus*



## 生態

寿命：陸奥湾産卵群では不明（太平洋約8歳、日本海約10歳）

成熟：オス3歳以上、メス4歳以上

産卵期：陸奥湾で12月下旬～翌1月中旬

産卵場：陸奥湾、岩崎沖、階上沖

分布：黄海からカリフォルニア沖に至る北太平洋大陸棚と大陸斜面。日本では島根県以北の日本海及び茨城県以北の太平洋から北海道沿岸。

生態：直径1mm前後の弱粘着性の沈性卵を200万粒～500万粒産卵。水温2～4℃、水深200～500mの海底付近に生息。主な餌生物は甲殻類（エビ、カニ）や魚類、頭足類（イカ、タコ）、貝類など。

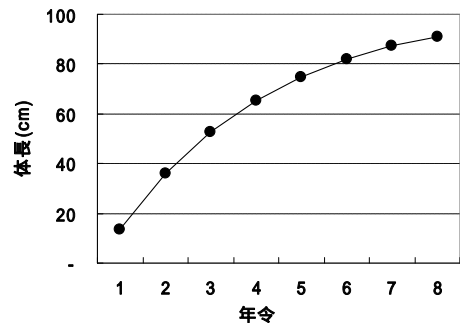


図 青森県におけるマダラの成長

## 主な漁業

陸奥湾では産卵期前後の12月から2月ごろにかけて主に底建網、定置網で漁獲される。陸奥湾湾口部は海水や魚類などの生物の「出入口」にあたる。陸奥湾の海水は、一般に津軽暖流が陸奥湾西岸寄りから流入し、冬季には東岸寄りから湾内で冷やされた水が流出する。そのためマダラが産卵のために回帰する「魚道」が東岸寄りに形成されやすいとされている。陸奥湾以外の海域では底びき網、底建網、刺網、釣りなどで漁獲される。

## 資源評価

陸奥湾における漁獲量は、昭和50年以降増加し、昭和61年2,035トンを超えて平成3年まで1,300～2,000トンの漁獲があったが、その後減少を続け、平成19年には昭和50年以降最低の16トンまで漁獲が落ち込んだ。

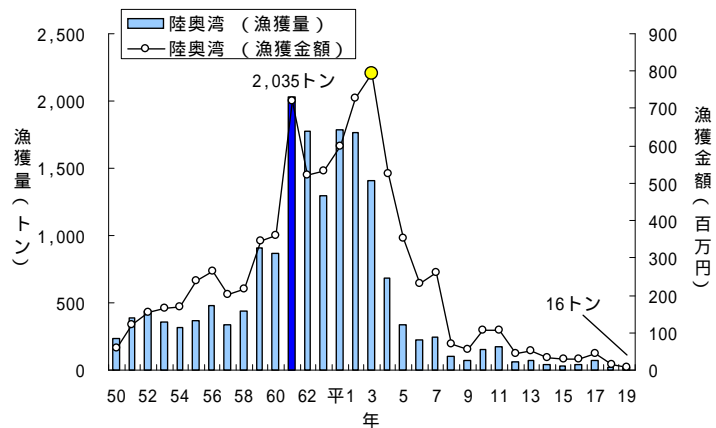


図 青森県マダラの漁獲量及び漁獲金額の推移



## 資源を上手に利用するために

マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画（平成19年3月水産庁）

- ・陸奥湾地区の底建網漁業及び小型定置網漁業による、放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流などについて定めた。

## トピックス

青森県沿岸では、陸奥湾以外にも日本海沿岸、太平洋沿岸でマダラが漁獲され、それぞれ日本海系群、太平洋北部系群とされている。平成19年の日本海沿岸の漁獲量は446トン、太平洋沿岸の漁獲量は4,163トンで、いずれも陸奥湾よりもはるかに多く、近年の資源水準も高位にある。